

運行プランを検討するため、ワーキンググループを設置することとしました

検討会の下部組織としてワーキンググループを設置し、運行プランを検討することについて提案があり、了解されました。4月から5月にかけて、ワーキンググループで具体的な運行ルートや移動手段の検討を行います。

次回の検討会は6月25日(火)午後6時半から細野ふるさとセンターで検討会を開催し、運行プランの検討で配慮すべき事項について話し合ってください。

スケジュール

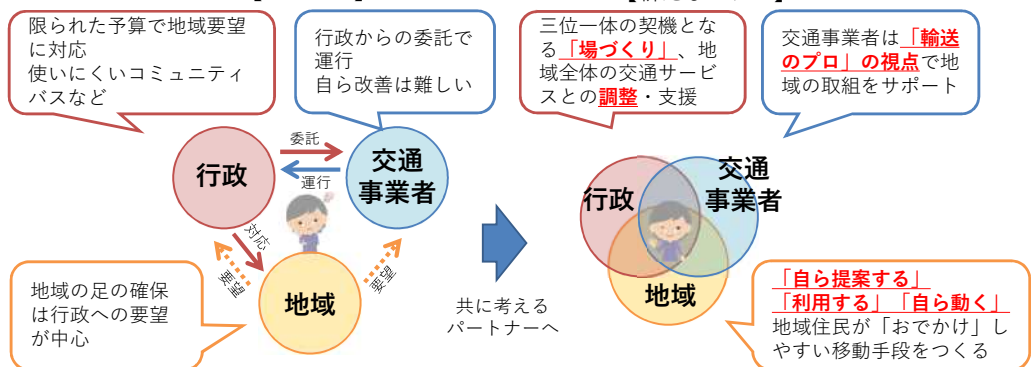
内容	日程
第1回検討会 移動の困りごとを共有しよう 済	1月29日
話し合いの成果をまとめて回覧板等で報告(暮らしの足通信第1号) 済	
第2回検討会 望ましい移動の手段を考えよう 済	3月12日
話し合いの成果をまとめて回覧板等で報告(暮らしの足通信第2号) 今はココです	
ワーキンググループ	具体的な運行ルートや移動手段を検討します。 4~5月
第3回検討会 何ができるか考えよう	運行形態で検討すべき内容をご説明し、要配慮事項について伺います。 6月25日
話し合いの成果をまとめて回覧板等で報告(暮らしの足通信第3号) ※目標: おおむね10月頃までに実証実験を開始	

「新たな移動手段」の目指すところ(通信第1号再掲)

高齢者でも使いやすく、きめ細やかに運行する交通サービスとして、地域の方と行政が協力して「新たな移動手段」を導入する動きが、全国各地で始まっています。「住民互助によるボランティア運送」や「タクシーの相乗り」などの「新たな移動手段」をいち早く地域に導入できるように、県はモデル事業について実証実験の実施を支援しています。

【これまで】

【新たなモデル】



県事業の目指す方向性

発行/お問合せ

安中市総務部企画課(担当:企画調整係)
〒379-0192 安中市安中1-23-13
TEL: 027-382-1111 (代表) FAX: 027-381-0503

群馬県県土整備部交通政策課(担当:企画調査係)
〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
TEL: 027-897-2869 (直通) FAX: 027-223-9510

細野地区「新たな移動手段」検討会

平成31年4月12日



暮らしの足通信 第2号

発行: 安中市企画課、群馬県交通政策課

～細野地区の望ましい移動手段について話し合いました～

去る3月12日(火)午後6時半から細野ふるさとセンターにて、2回目の細野地区「新たな移動手段」検討会を開催しました。当日は前回に引き続き、区長、民生委員をはじめとした29名の方にご参加いただきました。意見交換では、移動手段の導入にあたって重視したい項目を挙げ、それぞれの許容できる範囲などについて議論し、活発な意見が交わされました。



第2回検討会の様子

第2回検討会の開催内容を報告します

はじめに前回の振り返りを行った後、安中市のバス利用状況などについて説明がありました。その後、5つのグループで意見交換を行いました。その内容について、順番にご報告します。

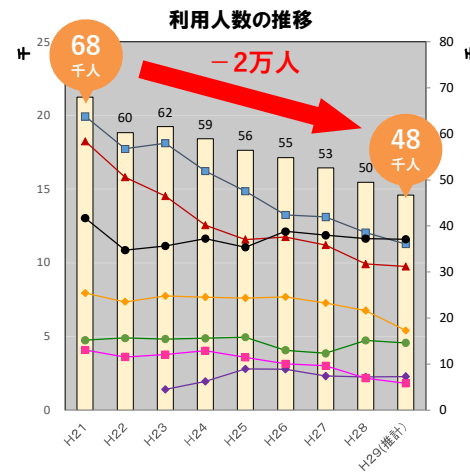


市のバスの現状について説明がありました

前回の検討会で市の公共交通の利用状況等について質問がありましたので、利用実態や歳出などの現状について説明が行われました。

■利用人数

市の路線バス利用人数は、高齢者の免許保有率の増加等を背景に年々減少が続いており、この9年間で2万人も減少しています。

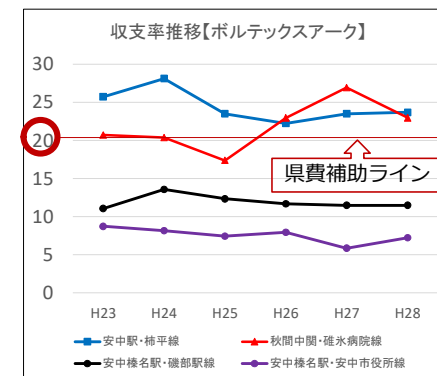


- 合計
- 安中駅・柿平線
- 秋間中間・碓氷病院線
- 安中橋名駅・碓部駅線
- 安中橋名・安中市役所線
- 碓部・中野谷線
- 間仁田・岩野谷線
- 安中市役所・松井田支所線

■収支率

運行にかかる経費を運賃でどの程度まかなえているのかを示す収支率は、乗合バスでは6~28%、乗合タクシーでは4~9%となっており、不足分は税金で補われています。(グラフは次項に続きます。)

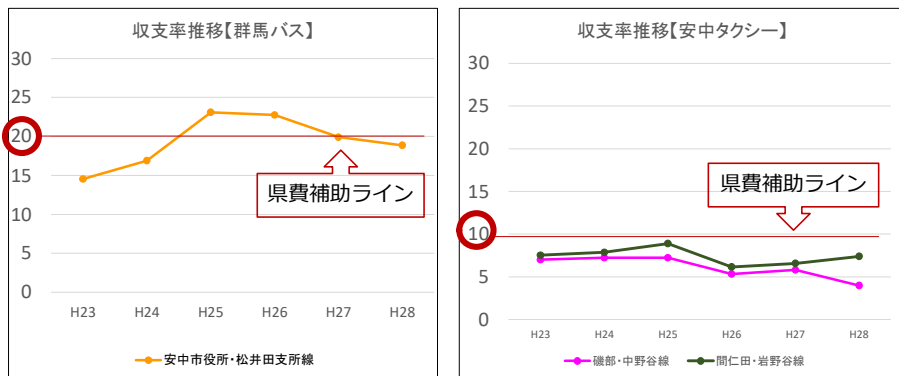
収支率の推移①



※県補助ラインとは?

収支率が低く赤字が大きい路線の見直しを勧める意味で、県の補助には下限の基準があります。例えば、乗合バスの県補助ラインは収支率20%ですが、これは運賃収入200円を得るのに運行経費が1,000円かかっていることを示しています。

収支率の推移②



歳出

公共交通に係る市の歳出は、バス・タクシー事業者の赤字補填や、タクシー利用の料金補助等を全て合わせると、約1億2千万円となっています。会場からは「既存の路線バスでさえ赤字が多額。細野地区の新たな移動手段は、地元の努力も含めた現実的な考え方で検討した方がよい」などの意見がありました。

バス・タクシー補助に関わる平成29年度歳出

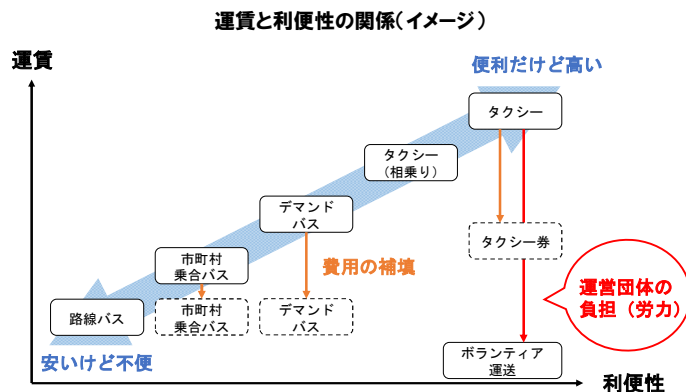
事業名称	内容	H29実績 (千円)	
路線バス	乗合バス・乗合タクシー運行費補助	前年度運行実績に基づく欠損補助	75,702
バス対策事業	車両購入費補助	バス車両購入経費	0
	バス利用高齢者への運賃補助	敬老バスカード1,000円ごとに150円補助	215
タクシー利用助成事業	タクシー利用した際の料金補助		43,262
合計			119,179

意見交換にあたって情報提供がありました

移動手段の検討にあたって必要な視点や、ボランティア運送に関わる保険について、意見交換の前に情報提供がありました。

安くて便利は難しい

路線バスのような運賃が安い移動手段ほど自由が利かず、タクシーのように便利な移動手段ほど運賃が高い傾向にあります。「安い」「便利」などの全ての希望を両立させることは難しいため、移動手段として重視すべき事項のバランスを考える必要があります。



ボランティア運送に関わる保険

前回の検討会でボランティア運送の保険に関する質問が出たことを受けて、活動団体向けに利用者の傷害保険を商品化した「送迎サービス補償」や、事故による保険料の値上がりを補償する「等級ダウン補償」などの保険サービスがあることが紹介されました。



細野地区の望ましい移動手段について意見交換を行いました

5つのグループに分かれて、「移動手段の導入にあたって重視したい項目」を挙げ、それぞれの「許容できる範囲」について議論を行い、各グループから発表が行われました。

主な意見は次のとおりです。



当日の主な意見

1. 重視したい項目と許容できる範囲

✓ 乗り場までの距離

- 体の不自由な人もいるため、ドアツードアで自宅から近いことが重要。
- 家の前まで運行は非効率。大きな通りまで歩ける人は歩いてもらい、歩けない人はボランティアによる補助などを考えた方がよい。

年金受給者は、料金負担が大きいため、買物に出られていない。

✓ 運賃

- 年金受給者を考慮して、料金は片道300円程度がよい。
- 市内は1,000円、松井田内はワンコインの500円くらいが利用できる上限。
- 行先や距離によって段階的に差をつける必要がある。
- タクシー券も含めた議論が必要。

「赤字が出れば補填」では、市内の路線バスと同じ。収入を上げるには、利用者を増やすか単価を上げるしかない。

✓ 行き先の範囲

- 安中市内程度は移動できないと用が足りない。
- 市外に行くなら最寄駅までとするのがよい。
- 役場、病院、ヤオコー、Aコープは必須だが、+αの場所にも行けるとよい。

病院なら碓氷病院、須藤病院、正田病院、松井田病院など。富岡総合病院まで行きたいニーズはある。

✓ 運行頻度

- 毎日運行しなくても、週3日くらいあれば用が足りる。
- できれば毎日が良い。午前中2便、午後2便あると便利である。

前橋や富岡などの市外に行くのは自助の範囲。

✓ 対象者

- 高齢者だけでなく、高校生等の利用も含めて考えるべき。

指標としては運行頻度もあるが、ある程度譲れる項目だと思う。

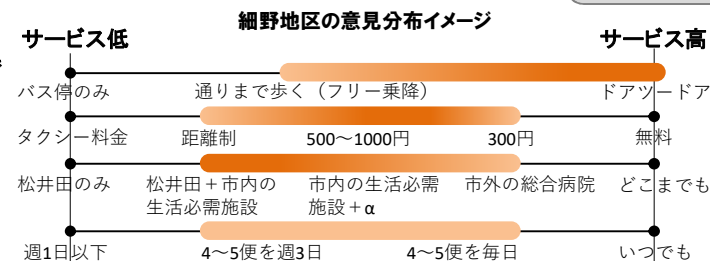
✓ 乗りやすさ

- 車の乗りやすさも一つの指標。マイクロバスなどは乗り降りが大変なので、車両は乗用車が良い。

✓ 利用方法

- 確実に帰って来られるように予約は必要。2~3日前くらいが良い。
- 利用登録した人が事前に予約する方式が良い。

悪天候の時は運行しないなど、安全なサービスであるべき。



2. その他(次回検討会への要望など)

✓ 運賃に関する情報が欲しい

- 運賃は現在の乗合タクシーが基準になると思うが、料金体系がわからないので教えて欲しい。
- タクシーを使った場合の費用との比較を行う必要がある。

✓ 図面が欲しい

- 運行プランを具体的に確認するため、各テーブルに図面が必要。

✓ 現状の路線バスの問題点が知りたい

- 収支率が悪くならないよう、他地区で運行している乗合バス、乗合タクシーの問題点を教えて欲しい。